

# おおたの同友

中小企業家同友会 大田支部 ◎ 広報誌リニューアル②号

広報委員会

おおたの同友 リニューアル2号 (2014年9月発行)  
 発行：中小企業家同友会 大田支部  
 編集：同友会大田支部広報委員会  
 ●針谷周作 (コトノハ)  
 ●佐々木正勝 (三笠総合保険)  
 編集協力：木村晃一 (木村工業)  
 鳥潟佑樹 (テック大洋工業)  
 編集制作：コトノハ株式会社 ☎03-6425-9308  
 入会のご希望は、東京中小企業家同友会大田支部  
 →☎03-3261-7201

Company visits  
**会社訪問**  
 ≡≡≡ **日本ウイントン株式会社**

## 大廻和彦さんインタビュー

中原街道と環八の交差点から程近い場所にあるのが、ビルやマンションの空調換気設備をきれいにする会社、日本ウイントン株式会社。同友会への入会は11年前と古いですが、参加をはじめたのは一昨年の秋という代表取締役・大廻和彦さんにお話を聞きました。



自社のキャラクター「ベント君」と一緒に撮影(8月29日)。

所であり、その会議室の奥の小さな窓から見えるのは、社内に設置されたカビの研究所「NPO法人カビ相談センター」。多くの頭を悩ますカビの問題を解決する相談窓口として、日本のカビ研究の第一人者である高島浩介先生を中心に、日々研究が続けられている。またJAICAと協業事業で毎年エジプトからの研修生を受け入れ、ピラミッドの中のカビ問題の研究や、関西学院大学と共同で高松塚古墳の壁画保護にも取り組んでいる。

### 今

年で創業34年目を迎える、主に、ビルやマンションの空調換気設備をきれいにする会社・日本ウイントン。社長の大廻和彦さんは、同友会への入会が11年前にも関わらず、一昨年の秋から積極的に参加するようになった。「もともと、大田支部の有倉さんたちがやっていた「右腕塾」(幹部社員が、社長の右腕となるようにする塾)にある時参加してみたいです。そこにいた講師の方や参加企業の皆さんが元気に満ち溢れていて、参加するだけで元気になった。それがきっかけで、同友会の「朝礼見学会」に参加するようになりました。以前から朝礼はやっていました。以前から連絡が大半で、会が進むにつれ皆の声が小さくなり、聞く方も朝から暗くなってしまう。やはり朝なので、「よし、今日もやるぞ!」という朝礼の方がいいじゃないですか。それで、うちもそれを取り入れようと参加していったのがきっかけですね。」

取材を行った会議室は会社の入り口からシースルーで見える場

太田支部 今後のスケジュール		Schedule	
月日	カテゴリ	場所	担当者
10月8日	幹事会	Luz	井上
10月15日	例会	Pio	有倉 正副支部長
10月23日	経営指針を深める会	Luz	荒井
11月6日	例会	きゅりあん	分科会担当
11月12日	幹事会	Luz	大廻
11月26日	経営指針を深める会	場所未定	
12月10日	幹事会	場所未定	高萩
12月12日	経営指針を深める会	場所未定	
12月17日	例会	場所未定	有倉
1月14日	幹事会	場所未定	山崎
1月21日	例会	場所未定	河津
1月28日	経営指針を深める会	場所未定	
2月14日/15日	一泊幹事会	KKR熱海の予定	荒井・河津・大廻・河津
2月25日	経営指針を深める会	場所未定	

また、住宅のエアコンや換気ダクト、レンジフードなどの清掃事業を始めてから地域の方と交流が増え、現在では地域の方の方向に、社員の田舎で育った新鮮



社内に設置された「NPO法人カビ相談センター」。カビ研究の権威・高島浩介さんが陣頭をとる。

取材：針谷周作・佐々木正勝

同友会大田支部 会員紹介

- ◆新入会員・復活会員
  - 旭産業株式会社 代表取締役 山田 誉路 (ヤマダ タカミチ)
  - 有限会社 三長 代表取締役 森田 恵里子 (モリタ エリコ) (休会からの復活)
- ◆会員交替
  - 株式会社 ミナミ商事 代表取締役 博田 一宏 (ハカタ カズヒロ) (ナンカ堂 大河内氏から交替)
  - 株式会社 日興製作所 代表取締役社長 久米 正啓 (クメ マサヒロ) (久米 正資氏から交替)

追悼

### 久米正資さんの思い出

(株)湯建工務店 湯本良一



久米さんとの出会いは、昭和60年12月でした。私より半年早く入会していた久米さんは、都立高専交流委員会の委員長を任せていました。

コンピューター産業の黎明期で、富士通の第1次協力工場を営んでおり、同友会に入会して、4ヶ月で専門委員会の委員長に選ばれる、かなり存在感のある方でした。中小企業にとっては、コンピューターはまだ手が届かず、ワードプロセッサが30万円程度の価格でやっと普及した時代です。ですから、富士通という名前を聞くだけで、その最先端企業に、関連する久米社長に対して、少し気後れる思いがありました。私も、久米さんと縁を持ちたくて、都立高専の委員に手を上げました。思い出します。

### 同友会大田支部が贈るブロック会に参加しませんか?

コトノハ(株) 針谷周作

私が同友会に入会したのは、2011年の創業時。高校と大学で同じだった先輩が、東京同友会の事務局にいたのがきっかけ。入会当初は、「こんな会があるんだけど、来ませんか?」とお誘いを受け、例会や講演会などに出席した。しかし、当初は、まだ会の全貌がつかめず、印象はぼんやりとしたものだった。

そんな状況が一転したのは、ブロック会に参加してからだ。現在は池上の温野菜で毎月の月はじめに開催されている「リバーサイドブロック会」に参加しているのだが、大田区の個人的な経営者がやってきて鍋をつつきながら会話を。そして、何度も通っているうち、何気ない会話の中でぼつりぼつりと出て来る経営者の光るアイデアや耳寄りの情報がいち早くつかめるすばらしい会だと思えるようになった。現在大田支部では、この「リバーサイド」と「大森」の2つのブロック会がある。日頃の社長業の発想の転換に、ぜひ気軽に御参加ください。

大田支部もまだ120名程度の会員数で、(株)サヤカの猿渡社長が支部長の頃です。支部で幹事会を開いたら、支部長を含めて3名しか集まらなかった事もある程度の活動状況でした。猿渡さんが、思わずこんな状態ではやってはいられないと、ぼやいたところ、すかさず集まった者に文句を言う。集める努力をするのが君の役割だと諭されて、発奮し会員集めに頑張ったという話も聞いたことがあります。丁度その時期に、大田支部の礎を創り出した人材が続々と集まりだしてました。その代り、頼まれれば仕事も早いし、アイデアもたくさん出てきますが、口数も多く、まさに百家争鳴の時代でした。久米さんは、ゆったりとした体型としやがれた声で、支部運営に大きな力を発揮して、支部を支えてきました。久米さんが支部長になる頃には、会員数も200名程に増え、共同求人や社員教育や立正大学・都立高専との交流や、21研・大田区産業振興課との交流など多様な活動が展開されていました。

「魔は天頂に住む」との諺がありますが、会社の経営も、ITバブルの好調な時から、リーマンショックやIT不況の苦闘など、大きな時代の変化に対応しながら、やっと一息が付けるなどという時、病魔に襲われました。東大病院に入院し、最先端の白血病の治療を受けましたが、薬石もなく、残念な事になりました。68歳は早すぎるし、もう少し生きて人生に彩を加えたいと思っていた、奥様をはじめ御家族にとっても、無念な思いがあると思われまます。残念な事だが、もう一緒に酒も飲めない。カラオケで十八番の「いい日旅立ち」も、もう聞けない。今日より明日が良くなると、日本の未来を信じられた時から、グローバルな競争に晒され、人口減少が進み、停滞の時を迎え、まさに中小企業の真価が問われる時に、君は逝ってしまっただ。同じ時代を生きた仲間として、痛切な思いがあります。お互い、社員や後継者の成長を楽しみに、会社の行く末を語り合う時間が欲しかった。本当に残念です。心から、ご冥福を祈りたいと思います。

